

審美歯科治療の構造化, 標準化

窪木拓男^a, 鈴木秀典^b

Structuralization and Standardization for Diagnosis and Treatment of Esthetic Dentistry

Takuo Kuboki, DDS, PhD^a and Hidenori Suzuki, DDS^b

美しい歯と口元は、その人の尊厳を守り、人生を豊かにするという意味で、老若男女すべての国民に歓迎される。21世紀に入りホワイトニング技術が日本へ紹介されたことで、国民の心の中に宿る美しい歯へのあこがれは覚醒し、「審美歯科」は瞬間に認知された。歯科治療の審美への傾倒は、治療の本質をなおざりにするのではないかと危惧をいだく者もいたが、近年のインプラント治療の審美領域への拡大とともに、今では過去の憂いとなった。「表面美」から「機能美」へ、そして歯の美しさから歯と歯周組織の調和した美しさへと、審美歯科は良い意味で広義化した。CAD/CAM技術の普及とともに、今後ますます審美歯科の需要は高まるばかりである。

ところが、この「審美歯科」という治療技術は、一部の卓越した匠（たくみ）によって提供される高度で高価なものであるという、ある種の崇拜願望や先入観が、国民はおろか歯科医にも蔓延している様に思える。美しい歯や口元は、それを望むすべての国民に提供されるべきであり、そのためには、補綴臨床に携わる専門医はもとより、一般歯科医院で働く臨床医であろうと、大学附属病院で働く臨床医であろうと、皆がこのような技術を習得すべきである。

では、なぜ「審美歯科は難しい」と感じるのでしょうか。それは、その技術体系が未だ構造化、標準化されておらず、一つ一つの技術の適応症例や治療技術が十分整理されていないため、ある特異な技術に習熟した専門医が施術するとよい結果が出て、一般の歯科医が必ずしも成功するとは限らないからである。日本補綴歯科学会として今まきになすべきことは、審美歯科治療の構造化、標準化である。できるだけ、誰

がやっても同じ成果が出るよう、歯の美しさ（White Esthetics）と、歯周組織の美しさ（Pink Esthetics）の目標を明確化し、治療方法の定型化などを通して、複雑多岐にわたる審美歯科治療をわかりやすく整理する必要がある。

このようななか、第1回補綴歯科臨床研鑽会プロソ'14が東京医科歯科大学で開催された。「審美補綴歯科臨床のカットニングエッジ」と題された日本補綴歯科学会史上初の価値あるシンポジウムには、500名以上の審美補綴分野のトップクラスの臨床家と技工士が一堂に会した。本論文は、それぞれのセッションに登壇いただいた先生方にご発表内容をあらためておまとめ頂き、広く会員の先生方に共有する目的で水口俊介大会長の発案で企画されたものである。

本論文が担当するシンポジウム1のテーマは「審美補綴のための補綴前処置, アタッチメントレベル・歯頸線」である。まず、シリーズの皮きりとして、石田雄一先生に「審美」とは何か体系的にまとめていただいた。我々が目指すべき理想像、誰が見ても美しいと思える口元の美しさとその基準をお示しいただくことで、審美補綴臨床の目的（ゴール）を共有化した。また個々に要求が違うために評価が難しい審美歯科のエンドポイントについてもご解説いただいた。佐藤洋平先生には、その目的達成のための補綴前処置に必要な審査診断についてご解説いただいた。問題点をカテゴリーに分類することで補綴前処置を決定していく手法について、実例をお示しいただきながらご説明いただいた。脇智典先生は、審美先進国である米国での経験と、帰国後の豊富な臨床経験の中から、日本人において最も頻繁に遭遇する唇側骨裂開を伴う前歯部イン

^a 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野

^b 関西支部

^a Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

^b Kansai Branch

プラント症例への対峙について、エビデンスに基づいた症例発表をいただいた。宮前守寛先生には、補綴的なアプローチだけでなく矯正治療や歯周治療の観点での補綴前処置が永続的な審美補綴の成功につながることを、長期症例を通じて力説していただいた。

日本補綴歯科学会が満を辞して開催したプロソ'14は、匠のアートにサイエンスを融合し、審美補綴の診断と治療が標準化に向かう第一歩となった。本論文が会員の先生方の審美補綴臨床を一段高いレベルへ導いてくれるに違いないと確信する。